

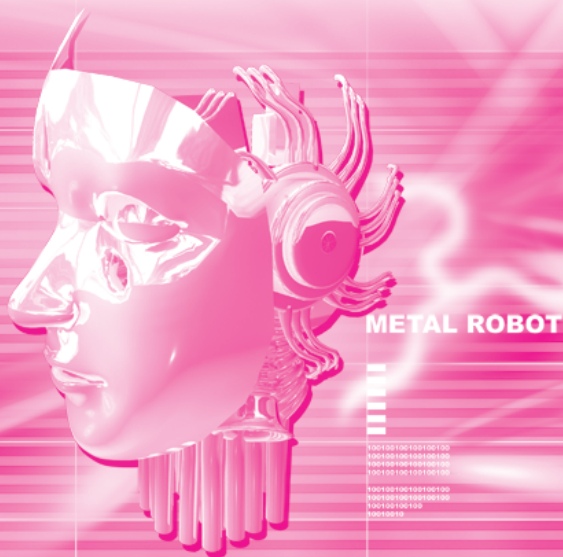
第37回 令和8年度

人工知能研究助成 応募要領



〈募集期間〉

令和8年7月1日から9月30日



ごあいさつ

公益財団法人中部科学技術センターは、民間が担う公益財団法人として、科学技術振興に関する諸事業を総合的かつ効果的に推進し、主に中部地域の産業発展に寄与し、もってわが国の科学技術水準の向上を図ることを目的に、「科学技術に関する普及啓発事業」と「地域産業振興事業」を車の両輪として積極的な事業展開を図っております。

また、当センターは、人工知能に関する研究の振興を図り、産業技術の高度化及びわが国経済の健全な発展に寄与することを目的に、人工知能の研究に対する助成、人工知能に関する講演会等を行っております。

その事業の一つとして、今年度も、学校、企業、研究機関に属する研究者及び研究グループ等において行われる「人工知能の研究・開発」に対する助成を行います。なお、企業以外の研究者の応募につきましては、「産業界との共同研究」を重点的に支援することといたしますので、積極的にご提案をいただきますようお願いしております。



応募者の要件

人工知能の高度化に関する研究を行う日本国内の学校、企業、研究機関に属する個人または研究グループを対象とします。

研究対象テーマ

人工知能及び関連技術分野（人工知能を活用した情報処理技術、情報通信技術等）の高度化に関する独創的な研究及び開発であって、次の各号に掲げるものとします。

- ①産業発展・環境保全における技術高度化並びに生産性向上のための人工知能及びその利用技術に関する研究
- ②医療・介護・教育・経済・法律等の知的支援に関する研究
- ③画像・音声理解、ヒューマンインターフェイス、エンターテインメント、感性情報処理の高度化に関する研究
- ④ロボットの感覚・運動・思考・知能・感情・インタラクション等に関する研究
- ⑤インターネット・IoT・モバイルシステムの知的で安全な利用方法に関する研究
- ⑥その他、人工知能の基礎及びその利用技術等に関する研究

助成件数および助成金の額

- ・助成件数 10件
- ・助成金 1件あたり50万円

助成金の使用期間

助成金使用期間は、採択決定通知日から令和10年1月31日までとします。

助成対象資金

申請研究に必要な機械装置・備品等設備購入費、材料・消耗品費、ソフトウェア購入費・利用料（クラウド型を含む）、図書購入費、旅費、技術指導謝礼金等の経費とします。ただし、研究者本人の人件費は対象外とします。

選考方法

学識経験者で構成する、当センターの審査委員会において、以下の選考基準に基づき厳正なる審査を経て決定します。

【選考基準】

- ①人工知能関連分野の独創的な研究であること
- ②社会に貢献する科学技術の高度化に寄与する研究であること
- ③研究の計画及び方法が目的を達成するために適切であり、かつ、十分な成果を期待し得るものであること

助成決定時期

令和8年12月下旬を予定しています。採択された提案研

究応募者並びに所属機関には、直ちに、文書で通知します。また、採択結果は、令和9年1月下旬に当センターホームページで公開します。なお、「採択」「不採択」の理由に関するお問い合わせには応じかねますのでご了承ください。

研究成果の発表について

- ・研究の成果は、当センターが開催する「研究成果発表会」において発表していただくほか当センターのホームページ等へ掲載しますのでご了承ください。
- ・助成研究の成果を学会等に発表される場合には、中部科学技術センター人工知能研究助成を受けて実施したものである旨を明示してください。

成果報告書等の提出期限

「助成金使用完了報告書」及び「成果報告書」（様式は当センターホームページに掲載）を令和10年2月28日までに提出していただきます。

助成研究成果の帰属

助成研究によって取得された産業財産権は、研究実施者に帰属することとします。

応募手続き

- ・応募は、学長、学部長、研究機関長、所属組織長等、申請者の所属機関の代表者による推薦方式とします。
- ・当センターホームページ (<https://www.cstc.or.jp/>) 掲載の申請書様式に必要な事項を記入の上、郵送またはE-mailにてお申し込みください。なお、E-mailの場合は、代表者押印後の申請書をPDF化し添付してください。
- ・募集期間 受付開始日 令和8年7月1日(水)
締切日 令和8年9月30日(水) 必着

提出先・問い合わせ先

公益財団法人中部科学技術センター
総務部 人工知能研究助成担当
〒460-0011
名古屋市中区大須一丁目35番18号 一光大須ビル7階
TEL 052-231-3043 FAX 052-204-1469
E-mail air@cstc.or.jp

提出情報等の取り扱いについて

- ・申請に関連して提供された個人情報については、本事業の目的以外には使用しません（ただし、法令等により提供を求められた場合を除く）。
- ・ご応募の申請書・資料等は厳重に管理し十全の機密保持をします。
- ・ご提出いただいた申請書・資料等は返却いたしかねますのでご了承ください。

人工知能の主要応用領域

(進化していく人工知能)

近年の人工知能は、大規模言語モデルを基盤としたマルチモーダルAIへと進化し、テキスト・画像・音声・動画・行動データを統合的に理解・生成する能力を備え、人に代わって計画立案、自立的タスク管理・遂行を行うAIエージェントを実現し、あらゆる産業、行政、教育、家庭で活用が進んでいます。

人工知能は一部では既に人を超える能力を持つ領域もあり、今後もその範囲は拡大を続けます。人工知能の安全性、信頼性、倫理性の評価と確保そして社会的ガバナンスの研究、また、人工知能研究で獲得・利用するデータの信憑性、合成データの生成、個人情報の権利と保護の技術などの研究も重要性を増しています。

また、量子計算機、エッジAI、AIチップなど省エネで持続可能なAIインフラの開発が進められています。

今後、人と人工知能が良好な相補・共存関係を保ち共進化したウェルビーイングな社会の実現が期待されます。

(応用分野の例)

①インテリジェントシステム

- ・ファイナンス・ストックシステム、eビジネス
- ・司法支援システム、教育システム、SNS
- ・医療事務、診断・手術支援、創薬
- ・自動運転、物流輸送、ドローン運航、ITS
- ・公共システム、農林水産支援システム、スマートシティ、エコシステム

②ロボット

- ・工場生産・組立ロボット、モバイルロボット、倉庫格納・物流ロボット
- ・アンドロイド、ヒューマノイド、装着型ロボット
- ・料理・家事・介護福祉・育児・リハビリ・診療ロボット、農業ロボット
- ・レスキュー・資源探査・極限ロボット、宇宙ロボット、サイボーグ
- ・コミュニケーションロボット

③大規模言語モデル、自然言語理解、会話処理、文書生成

- ・通訳機、機械翻訳、変換辞書、意味理解処理
- ・音声認識・合成・生成、音・音楽情報処理
- ・会話ロボット、旅行案内予約、悩み相談

④図形・画像・映像の理解・生成

- ・顔認識、情景認識、情報蓄積・圧縮・検索

- ・アニメ・動画・映像生成、3Dマッピング、VR/AR
- ・設計自動化、CAD/CAM/CAE、カーナビ、電子地図

⑤インターネット・セキュリティ

- ・ユビキタス・アンビエント、IoT
- ・暗号、ウイルス駆除、詐称防止、ファイアウォール
- ・生体認証、防災予知・防犯監視、ICタグ・コード

⑥機械学習、データサイエンス

- ・ニューラルネットワーク、ディープラーニング、生成系AI、GA/GP
- ・データマイニング、クラウド、ビッグデータ、気象予測、広告配信
- ・合成データ、データ品質管理、量子機械学習、省エネAI

⑦その他

- ・メタバース、A-life、AIエージェント、ファジィ、複雑系
- ・エンターテインメント、漫画・動画・ゲーム、感性情報処理

財団の概要

●名称

公益財団法人 中部科学技術センター

●目的

当センターは、科学技術振興に関する諸事業を総合的かつ効果的に推進し、主に中部地域の産業発展に寄与し、もってわが国の科学技術水準の向上を図ることを目的としています。

●沿革

昭和35年(1960) 7月 (財)日本科学技術振興財団中部地方本部(現:中部科学技術センター)として発足

昭和42年(1967) 8月 (財)日本科学技術振興財団より独立分離し、財団法人中部科学技術センター設立

平成24年(2012) 3月 公益財団法人認定

平成24年(2012) 4月 公益財団法人中部科学技術センターに名称変更

令和3年(2021) 10月 公益財団法人人工知能研究振興財団解散に伴い、人工知能研究の振興事業を承継、同財団の寄付により本研究助成を実施

人工知能研究助成対象者及び研究テーマ

(順不同・敬称略、所属・役職名は助成交付決定時による。)

令和6年度

福本桂資郎	慶應義塾大学 医学部 泌尿器科学教室 助教	ロボット支援手術における人工知能の臨床応用
村上 裕哉	静岡大学 工学部 化学バイオ工学科 講師	素反応解析が可能な半理論駆動型 Neural ODE 反応速度式の開発
市毛 将司	あいち産業科学技術総合センター 尾張繊維技術センター 機能加工室 主任研究員	画像生成 AI を用いた繊維製品における異常画像の作成
鈴木 友則	(株)アイシン・デジタルエンジニアリング デジタル技術部 技術企画室 主席	サロゲートモデルの品質可視化技術開発
納戸 直木	名古屋大学 学際統合物質科学研究機構 助教	光増感剤の設計を志向した分子生成モデルの開発
島 孔介	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 工学専攻 知能情報プログラム 助教	少数センサ情報から体全体の動きを復元する技能評価用オートエンコーダの研究
松田 基	岐阜工業高等専門学校 電子制御工学科 助教	深層学習による画像処理を取り入れた汎用的な筋電義手システムの開発
安藤 正規	岐阜大学 応用生物科学部 / 人工知能研究推進センター 准教授	人工知能技術を活用した野生動物の低コスト個体数推定パイプラインの確立
藤森 孝人	大阪大学 大学院 医学系研究科 器官制御外科学 整形外科 講師	マルチモーダル情報を活用したAI骨加工ロボットの開発
三好健太郎	岡山大学 岡山大学病院 呼吸器外科 助教	Long-short term memory を用いた肺移植後レシピエントにおけるタクロリムス濃度予測 AI モデルの新規開発

令和7年度

長山 和亮	茨城大学 学術研究院応用理工学野 機械システム工学専攻 教授	力学・幾何学情報融合型の細胞機能高精度判定プラットフォームの開発
中川 晴子	東京科学大学 東京科学大学病院 がんゲノム診療科 医員	基盤モデルを用いたがん免疫療法の副作用予測手法の開発
李 家隆	早稲田大学 高等研究所 講師	マルチモーダル情報と大規模言語モデルによる適応型インタラクティブ学習の創出
北越 大輔	東京工業高等専門学校 情報工学科 教授	高齢者の生体・活動データを用いた包括的介護予防を実現する AI 活用認知訓練・見守りシステムの開発
鈴木 拓央	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 准教授	特定物体との位置関係を考慮した深層学習による安全安心な動作確認
伊藤滉一朗	名古屋大学 大学院情報学研究科 知能システム学専攻 助教	語りに傾聴を示す応答の自動生成と自動評価
名倉あずさ	名古屋市工業研究所 システム技術部 生産システム研究室 研究員	機械学習による CT 画像を用いた樹脂材の微細構造の定量評価法の開発
森重 健一	富山県立大学 情報工学部 知能ロボット工学科 准教授	人工知能技術と脳波逆問題解法を組み合わせた作業記憶の脳内メカニズムの解明
福井 亮平	岡山大学 学術研究院保健学域 放射線技術科学分野 助教	基盤モデルを用いた胸部単純X線画像による骨密度推定アプリケーションの開発
小野 智司	鹿児島大学 大学院理工学研究科 情報科学専攻 教授	過去の勤務表から制約条件を自動設計する介護施設スケジューリング